

「江別市ヤングテレホン創立30周年記念講演会」

30年前、皆様は何をされてい
 ますか？

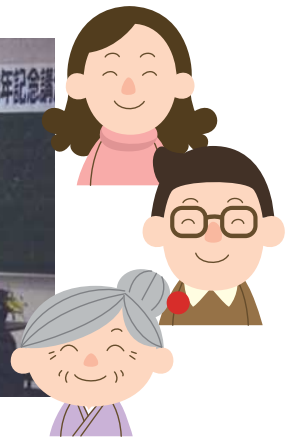
江別市ヤングテレホンはお蔭
 様でこの度、30周年を迎えるこ
 とができました。30年とサラッ
 と書いてしまふのは簡単ですが
 30年、若者の声・悩みを聴くとい
 うもの、重い重みと共に時の流れ
 を感じます。

平成23年12月18日(土)大麻
 公民館研修室2号に於いて、市
 川啓子先生をお招きし「子ども
 の心が育つ環境」と題して江別
 市ヤングテレホン創立30周年記
 念講演会を開催致しました。

ここで、市川啓子先生をご紹
 介させていただきます。

市川啓子先生は札幌学院大学
 人文学部臨床心理学科教授を中
 心に現在は、平成12年より北海
 学園大学非常勤講師、平成21年
 からは札幌アシストセンター子
 ども救済委員など幅広くご活躍
 されています。又、市川先生は30
 年程前からカウンセリング職に
 就き、その間「医療・社会福祉・教
 育」の現場で子どもの心の問題
 に携わってきた経験から、大人
 の問題が子どもの育ちに大きく
 影響を与えていることを痛感し
 ていると述べています。

子どもの成長を形作るものと



して第一に「家庭養育機能の変化」
 をあげ、核家族化や地域社会の
 崩壊など、子どもを取り巻く社
 会環境が人とのつながりの力を
 奪っている。第二に「子どもの文
 化の貧しさ」としてネットやゲ
 ームで夜遅くまで起き、昼夜逆
 転で生活が乱れ学校に行けない
 子や、ネット上での人との関わ
 りが主になり生きた人との関わ
 りが学べなくなっている。第三
 に「経済的貧困の影響」をあげ、
 大人が将来の見通しや夢を持って
 なくなっているのも現状であり、
 格差を生むことで子どもの中に
 影響を与えていることを垣間見
 る昨今である。

孤立する孤独な子育てが背景
 にある現在、親を取り巻く社会
 的環境要因を少しでも安定させ、
 行政や地域住民の手助けが必要
 であり、街全体で子どもの心を
 支えあい、子どもを見守り、子ど
 もを育てるという意識と仕組み
 が重要であると痛感いたしました。

最後に先生は「人は、相手の心
 の深さに応じて心を開く」とい
 う言葉に改めて、援助焦点は何
 かを考えさせられた一言でした。
 参加者は受容と共感に包まれ
 和やかに講演を終えました。
 ありがとうございました。

(江別市ヤングテレホン)

創立30周年記念実行委員

石川奈穂江 郷歩





2月19日、よく晴れた春のような日に野幌公民館2階研修室にて江別生涯学習イン
 スとアクターの会主催の「第2大麻幼稚園 園長 安藤陽子氏」による講演会が開かれ
 会場からあふれそうに多くの方が参加されました。

「安藤 先生の講演会に参加して」

杉中 美津子

手遊びから始まる講演会に
 はなかなか参加する機会があ
 りません。しかし今回は『かえ
 るの唄』を皆で歌い、両手を使
 いグングン動かしながらあつ
 という間に安藤陽子先生の世
 界に引き込まれていきました。

40年余り幼児教育に携わつ
 た先生が『シユタイナーの幼
 児教育』を第2大麻幼稚園で
 実践するまでの道のりを御自
 身の生い立ちを織り交ぜなが
 らお話くださり参加者から、
 鼻をすする音が聞こえてきま
 した。

自然とふれあい、園内には
 柔らかな色が溢れそこにつど
 う子供たちはキラキラとかが

やきます。それを目の当たり
 にするお母さんの足が自然と
 園に向かい、母親同士の絆が
 深まって「繋がり」が卒園して
 も継続します。

そう、実はわが子も第2大
 麻幼稚園を卒園しました。

原稿をお寄せいただき有難
 うございました。杉中さんは、
 先生の最後の講演ということ
 で、お友達と先生への花束を
 持参しての参加の感想を寄せ
 てくれました。

幼かった子どもたちと一緒
 に親も育ててもらったような
 幼児期が充実していたことは、
 親として、子どもとしてお互



いの貴重な時間であったと思
 います。

安藤先生長い間の御活躍と
 このたびの講演をありがとうございました
 ございました。参加された多
 くの皆様ありがとうございました。



新たな事業・「日中交流サロン」を開催

手遊びから始まる講演会に江別日中友好の会では中国との新たな交流事業として、昨年度から「日中交流サロン」の開催を始めました。この事業は、本会の会員や中国語講座と中国人留学生等との交流の場を設け、日中両国の歴史、生活文化等について相互理解を深めながら、日常会話の習得、向上に資することを目的としたものです。

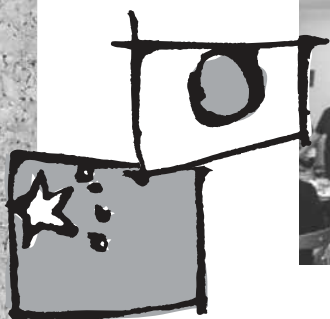
本年度は2～3回の開催を予定し、その1回目を12月4日(土)、江別国際センターで開催しました。

この日は市内の北海道情報大で学ぶ13名の留学生を45名の方々に参加し、茶の原産地中国から伝来したお茶の文化を基に日本の伝統文化として大成を遂げた「茶道」の歴史紹介や日中愛唱歌の交歓、ビンゴゲームなどが行なわれました。

また今回は、特に用意したジャスミン茶や煎茶のお供に留学生お好みのショートケーキや「た

こ焼き」、留学生手作りの「茶蛋(チャーダン)」が並び、更に協力参加を頂いた「手話歌あやとり」の皆さんから茶の湯の御手前なども披露されました。この間、テーブルごとの会話も弾み、楽しくなごやかに過ぎた2時間半の交流でした。

江別日中友好の会 柚原



「春が近くなりました。大人も絵本をどうぞ」

江別の空の上を白鳥たちが飛んで行く季節が近くなりました。江別在住の木版による絵本作家手島圭三郎さんの「おおはくちよのそら」をご存知ですか？家族のつながり親子の思いなど大人にとっても味わい深い絵本です。何かと気せわしい時、自分への時間としてゆっくり絵本はいかがですか？

春を待つ心は生き物すべて共通するのかもしれない。紙面に限りがありますので、

この時期に手に取っていただくとほっとして、最後にほほえんでしまう2冊をご紹介します。絵本の持っている力を子どもだけに：はもったいな。心がつらい大人にこそ効くよい薬くっです。いずれも情報図書館にありますので是非どうぞ。

◎「ぼとんぼとんは なんのおと」 福音館書店 神沢利子作 平山英三絵
◎「仔牛の春」 偕成社 五味太郎作

おはなしなあに 松山 和子

「こねっと 22号が出来ました」

子ども文化ネットワーク・江別では、毎年3回情報紙を発行しています。今年度も22号が発行されました!!

各公共施設などに配布されていますのでどうぞ御利用下さい。市内の小学校・中学校や

家庭文庫など地域のための読み聞かせが江別市では活発に行なわれています。活動を行なっている方々の交流など、ネットワークすることにより充実した活動の手助けや情報提供が出来ればと、年3回発行されています。今回の内容はこねっとメンバーの活動の様子や、

絵本の紹介、創設者である故若松みき江さんへの追悼文などです。次号では小学校で始まる新体制の読み聞かせ団体の紹介ができる予定です。どうぞよろしくお願致します。

江別まつことええ&北海道情報大学 支援対象事業についての報告



2010年10月9日(土)から11日(月)までの3日間、4年連続ファイナル進出を記念して、三重県津市の安濃津よさこい祭りにチームで出場し、記念演舞を行ってきました。

安濃津よさこい祭りは2010年で19回目の北海道のYOSAKOIソーラン祭りから発信して誕生した祭りので、13回目を迎えた大きな祭りに成長しました。北海道同様、各地域に舞台があり、我がチームも9会場、15ステージを演舞してきました。1会場毎に、我がチームの特徴であります提灯(ちようちん)を手にしたダイナミックな踊りや「まつことええのソーランよ」と繰り返し歌う曲に応援してくださるファンも増え、我がチームの良さや北海道のYOSAKOIソーランの良さを広げてくれることができました。同時に、演舞前や懇親会などのあいさつの中ではレンガの街、焼き物の街、江別市のPRも大いにさせていただきました。特に、ノーベル化学賞受賞の話題では、大きなお祝いの拍手もわき上がるなど、実り多い遠征となりました。江別市からの温かな支援

にも心より感謝申し上げます。
2011年も江別市民から愛されるチームを目指して活動していきます。新入会員も大募集中です。



生涯学習発表会に参加して
代表 松浦貴臣

D1魂 キッズ、ヒップホップダンスを始めて4年目になります。江別を元気にするために江別育ちの子供達で結成されたチームです。年間4回のステージをしています。

昨年は発表会に出演できませんでした。(インフルエンザ)

今年始めて出演が出来、子供達は年間最後のステージだったので思っきり楽しんで踊りました。月がキラキラと輝いてました。

沢山の飲み物、おやつを用意していただきとてもうれしかったです。

一番のお願いとするところは、チームが心一つになって元気に仲良く、楽しんで、生涯の学習に役立ててほしいと思います。



《編集後記》
今年も雪も少なく暖かく、何とかなったのは初めだけ、年明けと共に降るわ降るわ、気温も結構下り、思っ存分、厳しい冬を経験させていただきました。
でも春ももうすぐ、さ・は・ら・も又、新年度を迎えます。もうすぐ新しい年を迎えますように。
三井 房子

